

見直しの背景

- ・ 現行の運営基本方針策定から8年が経過し、社会情勢が大きく変化  
→ 県民の課題の複雑化と多様化
- ・ 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の改定（平成24年）  
→ 県立図書館の役割の明確化、運営状況の評価と公表の努力義務化
- ・ くまもと文学・歴史館へのリニューアルと機能の拡充  
→ 「知の拠点」としての期待の増大
- ・ 「肥後っ子いきいき読書プラン（熊本県子どもの読書活動推進計画）」（第四次）の改定（平成30年度）  
→ 子どもの読書活動推進の必要性の増大

旧方針策定時と現在の比較

	【H20】	【H29】	【H29-H20】
・ 入館者数	288,591人	207,491人	▲81,100人
・ 資料の所蔵数	894,827点	1,103,467点	+208,640点
・ 図書貸出冊数	235,401冊	182,132冊	▲53,269冊
・ レファレンス(※1) 件数	13,951件	6,992件	▲6,959件
・ ホームページ アクセス件数	220,478件	156,950件	▲63,528件
・ 図書購入費	42,777千円	21,479千円	▲21,298千円
・ 購入冊数	17,660冊	7,538冊	▲10,122冊

利用者アンケートの結果より

- ・ 利用者の年齢は60歳以上が全体の約4割
- ・ 主な利用目的は、自習、調べもの、本の貸出
- ・ レファレンスの利用経験者は約2割、レファレンス自体を知らなかった人が3割強で、利用経験者の3人に2人はレファレンスの結果に満足
- ・ ホームページは約半数が利用あり、うち7割が利用頻度は月1回以下
- ・ 図書館利用者の約6割が文学・歴史館にも入館しており、その約4割が文学・歴史館への入館が図書館利用に影響を与えたと回答
- ・ 利用者の満足度は、7割強が満足、約1割が不満足と回答、主な理由は満足・不満足ともに「利用環境」「蔵書数」「職員の対応」など
- ・ 今後期待することは、「幅広い分野の資料の資料収集・提供」「熊本に関する資料の収集・提供・保存」「『調べる図書館』としての機能」など

おもな課題

- ・ 市町村立図書館等との役割分担を明確にし、県立図書館の役割を意識した効率的な資料の収集と整備に努めることが必要
- ・ 当館の提供する蔵書やサービス等についての積極的な情報発信が必要
- ・ 利用者の多様なニーズに対応できる資料の充実や職員の資質の向上が必要
- ・ 熊本に関する資料や情報の収集のさらなる推進が必要
- ・ 子どもの読書活動推進に向けた子ども図書室の取組の充実が必要
- ・ 「肥後っ子いきいき読書プラン」に沿った取組の確実な実践が必要

新しい運営基本方針（新方針）

基本理念

熊本を支え、発信し、創造する県立図書館  
～ 知恵と力を生み出す「知の拠点」へ～

運営方針と取組の方向性

- 1 熊本の暮らしを支える
  - 1 全県域を対象としたサービスの提供
    - (1) 市町村立図書館等との連携
    - (2) 市町村立図書館等への支援
  - 2 生活や仕事に役立つサービスの充実
    - (1) 県民や地域の課題解決への支援
    - (2) 関係機関等との連携
- 2 熊本の学びを支える
  - 1 熊本で学ぶ人に役立つサービスの充実
    - (1) 「調べる図書館」としての機能の強化
    - (2) 学びの場や学びを共有する機会の提供
  - 2 熊本を学ぶ人に役立つサービスの充実
    - (1) 熊本に関する資料や情報の収集
    - (2) 熊本に関する資料や情報の提供と発信
- 3 熊本の文化を発信する
  - 1 熊本の文化を守る取組の充実
    - (1) 館内資料の保存
    - (2) 館外資料の保存
  - 2 熊本の文化を発信する取組の充実
    - (1) くまもと文学・歴史館との連携による情報の発信
    - (2) 多様な方法を駆使した情報の発信
- 4 熊本の未来を創造する
  - 1 熊本の次世代を担う子どもの育成に向けた取組の充実
    - (1) 子ども図書室における取組
    - (2) 学校や家庭、地域との連携
  - 2 図書館の充実と発展に寄与するための取組の充実
    - (1) 図書館を支える人材の育成
    - (2) 図書館振興に関する情報の発信